

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 10 月 9 日 9:34AM 更新

[日経平均・TOPIX]

【当面の想定レンジ】(日経平均) 49,500～70,000 円
(TOPIX) 3400～4200

[NY ダウ・S&P500]

【当面の想定レンジ】(NY ダウ) 45,000～54,000 ドル
(S&P500) 6300～7820

[ナスダック 100]

【当面の想定レンジ】(ナスダック 100) 23,500～31,500
(ナスダック総合) 20,700～27,800

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 140.000～160.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 98.000～103.650

※本レポート次回号は 10 月 16 日(金)の発行予定です。

エリオット波動とは

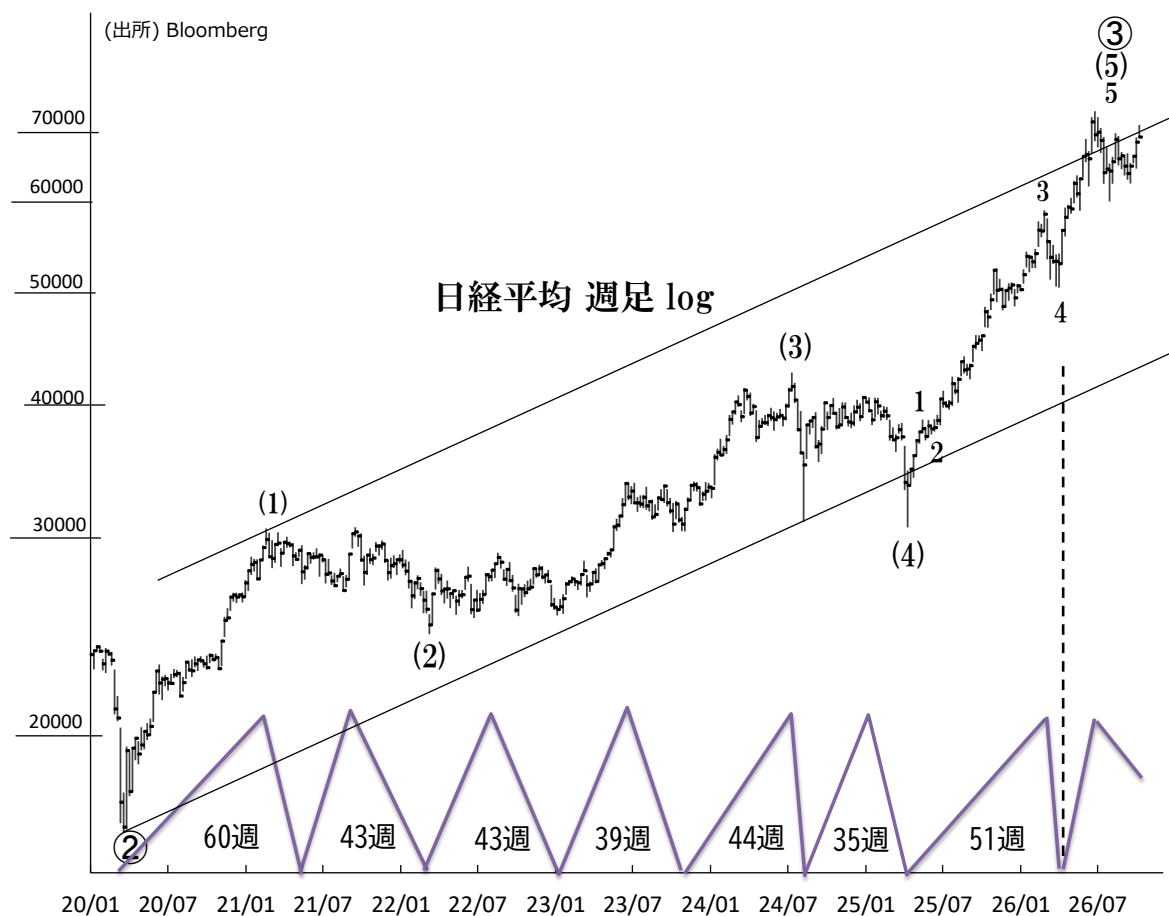
株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は 5 つの上昇波と 3 つの下降波（合計 8 つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均・TOPIX



【週足 エリオット波動分析】

72,831 円(6/22 高値)以来、プライマリー第④波の弱気相場が進行中とみています。

3 月末(50,558 円)からの現行週次サイクルは、弱気相場に特有の「レフト・トランスレーション(右肩下がり)」になる公算が大きいでしょう(上昇期間よりも下げ期間が長くなります)。

現行サイクルの上昇期間はフィボナッチ 13 週(両端入れ)の長さでした。サイクル全体が 37 週～53 週(※1)ということから、6 月 22 日(サイクルトップ)からの通算下げ期間は、24 週～40 週(5 カ月～8 カ月)と推定されます。

換言すると、日経平均は今年 11 月～来年 3 月まで下値模索の展開が予想されます。

なお「レフト・トランスレーション」において、サイクル終点の価格がサイクル始点の価格を(通常は)下回ります。現行週次サイクルは少なくとも 50,558 円を下回るまで続くでしょう(※2)。

(※1)週次サイクル期間(2020 年以降の補正後)は 45 週±8 週(37 週～53 週)。

(※2)サイクルの高値から安値まで、下げ率は 10%～26%(平均 17%)。今サイクル安値が 50,558 円未満であると仮定すると、現行サイクルの下げ率は 30%を超えることになる。

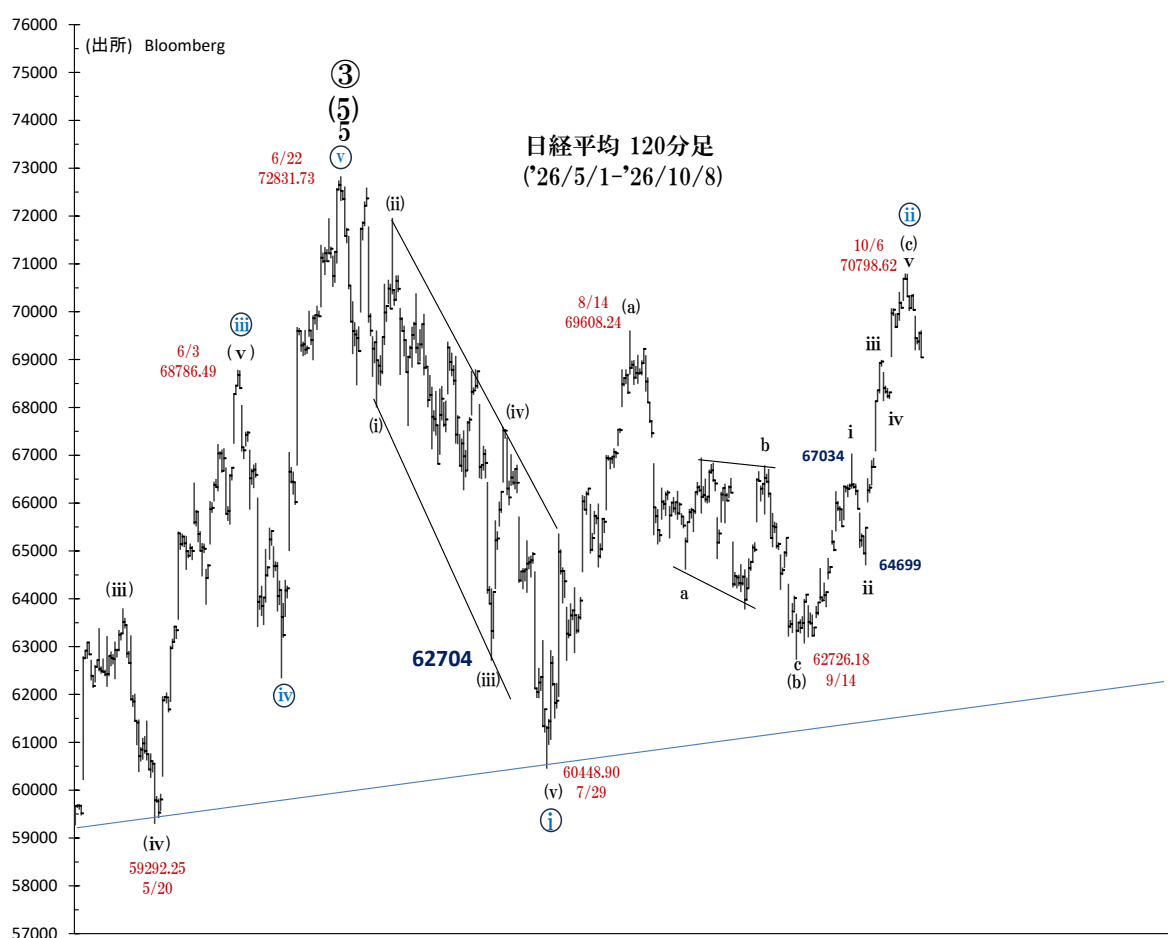


[TOPIX]

日経平均のプライマリー③波のピークは6月22日、TOPIXは8月14日に4220でピークを付けました（未確認による天井打ち）。以来、プライマリー④波の調整にあり、今はその序盤です。

プライマリー④波の調整規模は、プライマリー第②波(2018年1月～20年3月)の下げ率(37.2%)と同等か、それ以上の大きさになると思われます。

10月7日には一時4201と、8月高値に接近しましたが、この日は前日比0.7%のマイナスで引けました。さらに翌8日は「アイランド・ギャップ」を空け、前日比1.5%の下げでした。これらは、TOPIXが2カ月越しの「ダブル・トップ」を完成し、調整に入ったことを示唆しています。



[日経平均・120分足]

60,448 円(7/29 安値)からの上昇は、(a)-(b)-(c)パターンによるマル ii 波のリバウンドに位置付けられます。62,726 円(9/14 安値)からの上昇(c)波を完成すると、マル ii 波全体も終了することになります。

マル ii 波は 70,798 円(10/6 高値)で終わった可能性があります。

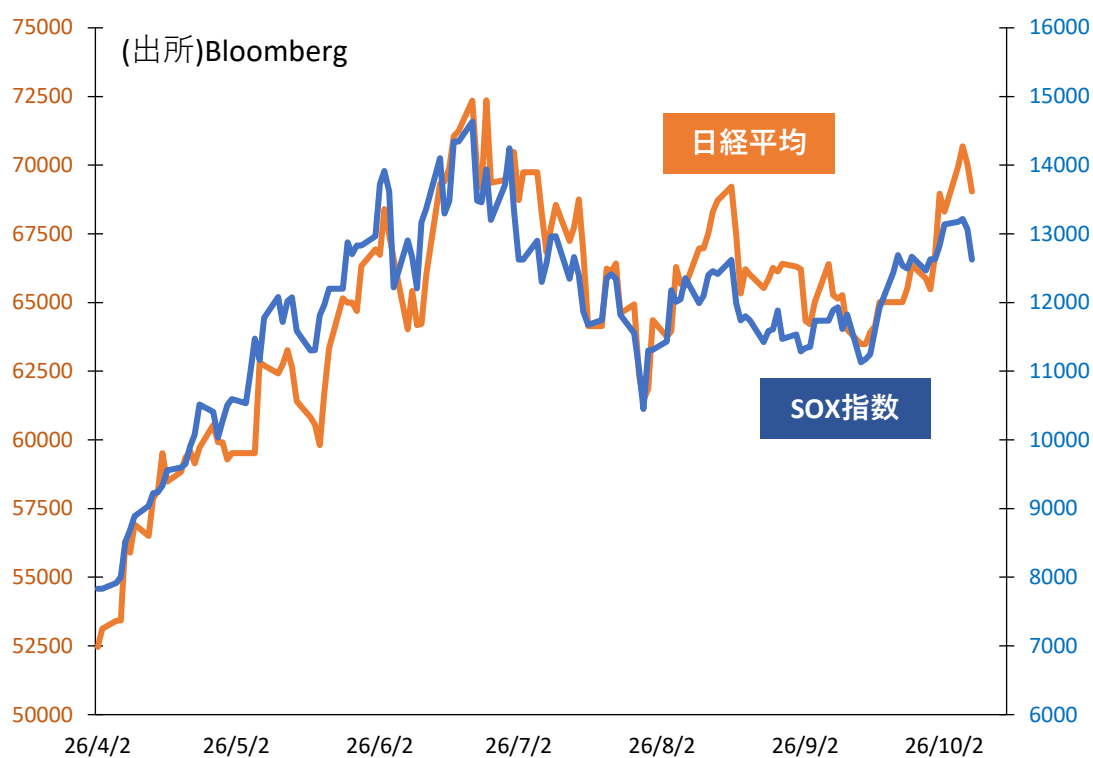
もしそうであれば、マル iii 波による下げトレンドが始まっています。マル iii 波の下げ幅は、控えめにみてマル i 波と同じ規模(1 万 2382 円幅)が想定されます。

なお現時点では、直近の下げをマル ii 波における第 iv 波と見ることはできます。この場合は、マル ii 波を完成するために必要な最後の上昇・第 v 波が残されています。

日経平均と SOX 指数は「二番天井」を示現したか？

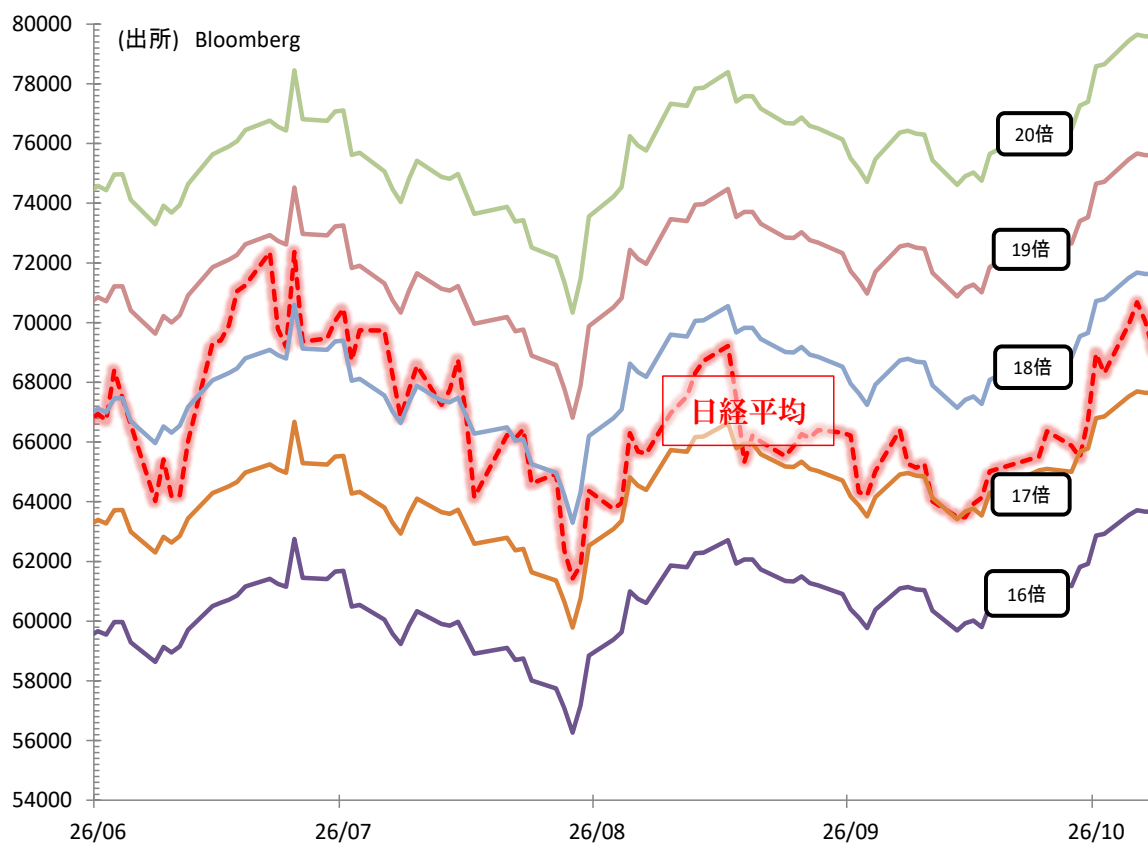
日経平均と SOX 指数には強い相関が認められます。直近で付けた高値を以て、6 月の「一番天井」に次ぐ「二番天井」を付けたかもしれません。

この見方が正しければ、日経平均と SOX 指数はともに、7 月安値を下回る展開に発展していく可能性があります。

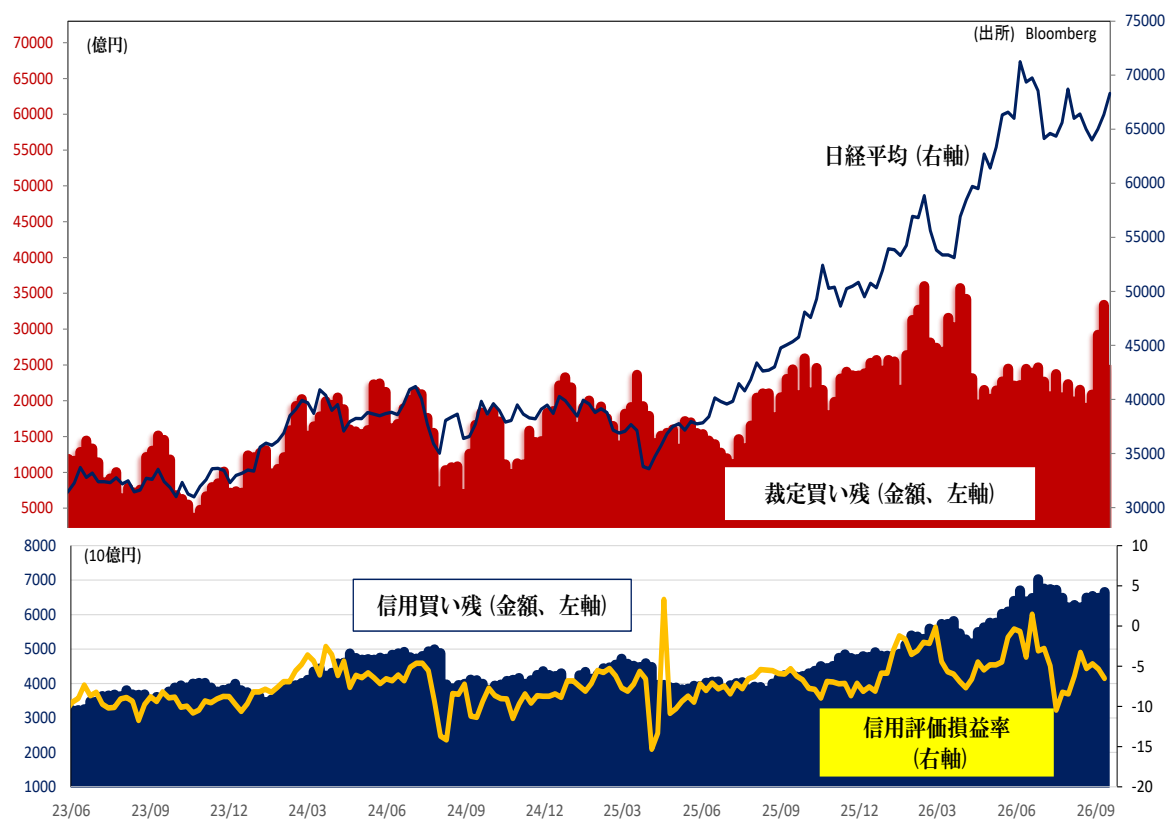


[予想 PER 別の日経平均水準]

10月8日の日経平均予想 PER は 17.35 倍、予想 EPS は 3979 円。過去最高は 3982 円(10/6)です。



[裁定買い残と信用買い残] (10月2日時点)



NY ダウ・S&P500



【NY ダウ 30 日足 エリオット波動分析】

半導体株とAI関連株への集中投資により、ナスダック総合指数とナスダック100、そしてS&P500は10月6日に最高値を付けました。一方NYダウ30はまったく追随できていませんし、ダウ輸送株の足元安値は4カ月ぶり水準です。

NYダウは、4月下旬からの「メガホントップ」天井パターンから下放れが続いています。

当面の注目サポートレベルは5万ドル処。この付近に200日MA(50,340ドル)、3月からの上昇の半値押し[49,900ドル]などが存在します。

49,900ドルを割り込むと、3月からの上昇に対する61.8%押し[48,757ドル]を目指すことが想定されますが、より大きな弱気の可能性があります。



【S&P500 日足 エリオット波動分析】

足元の長期金利(10 年)は 24 年ぶりの水準にあり、実質金利は 3%に接近しています。

それでも株価は最高値付近で推移し、VIX 指数(恐怖指数)は依然として異例の低水準が続きます。

多くの株式投資家が金利高を軽んじており、株高の継続を疑っていないようです。しかし過度な楽観ムードは遠からず終わり、不安と恐れが市場に広がっていくと思われます。

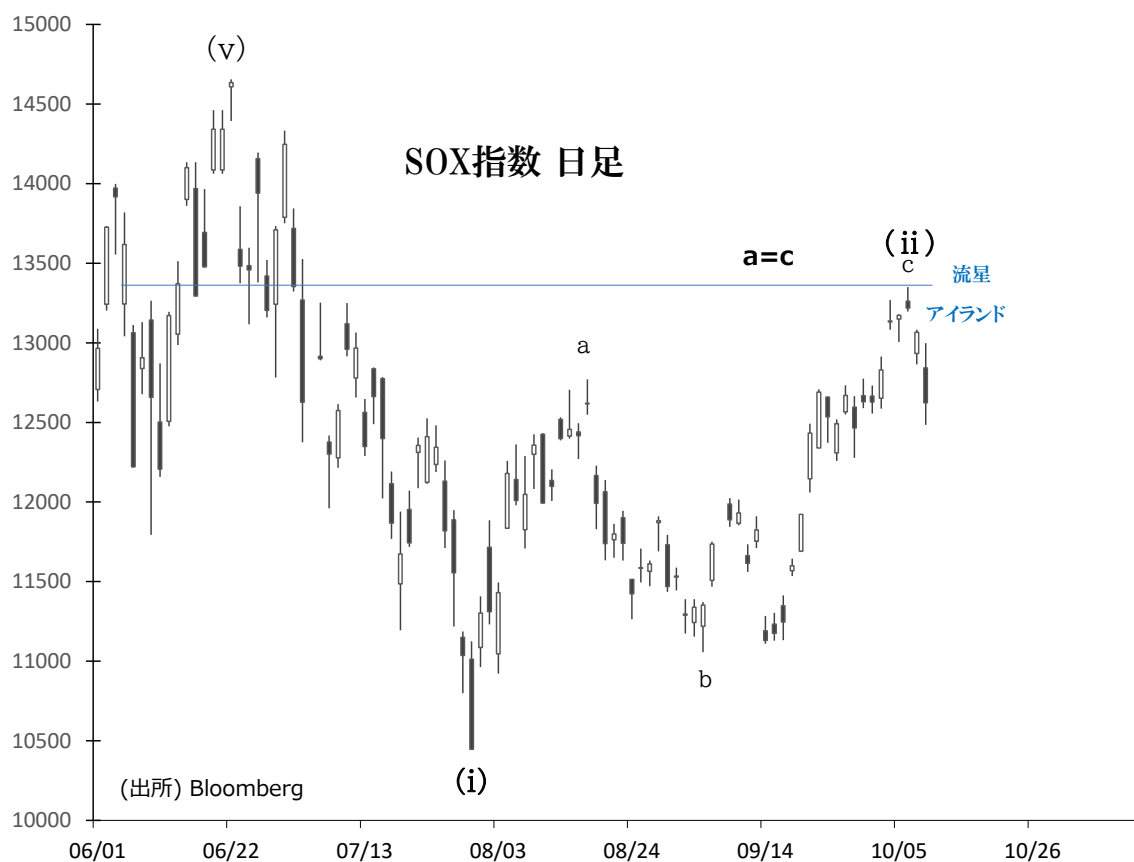
10 月 6 日には最高値を更新しましたが、この日の高値(7844)を以て、25 年 4 月安値以来の第(5)波完成とみることができます。この見方は、SOX 指数の潜在的な弱さによって裏付けられているようです。

SOX 指数

7 月 29 日安値(10,445)からの第(ii)波リバウンドは、10 月 6 日高値を以て完成した可能性があります。この日の高値(13,349)は、第(ii)波の a 波と c 波が等しくなる水準[13,381]に極めて近いものでした。

10 月 6 日のローソク足「流星」(天井暗示)に続き、翌 7 日にはマドを空けての下げとなりました(アイランド・リバーサル)。

第(iii)波の下落トレンドが始まったとすると、そのスケールは第(i)波(28.7%下げ)を凌駕する大きさになるでしょう。



Bloomberg マグニフィセント 7 インデックス

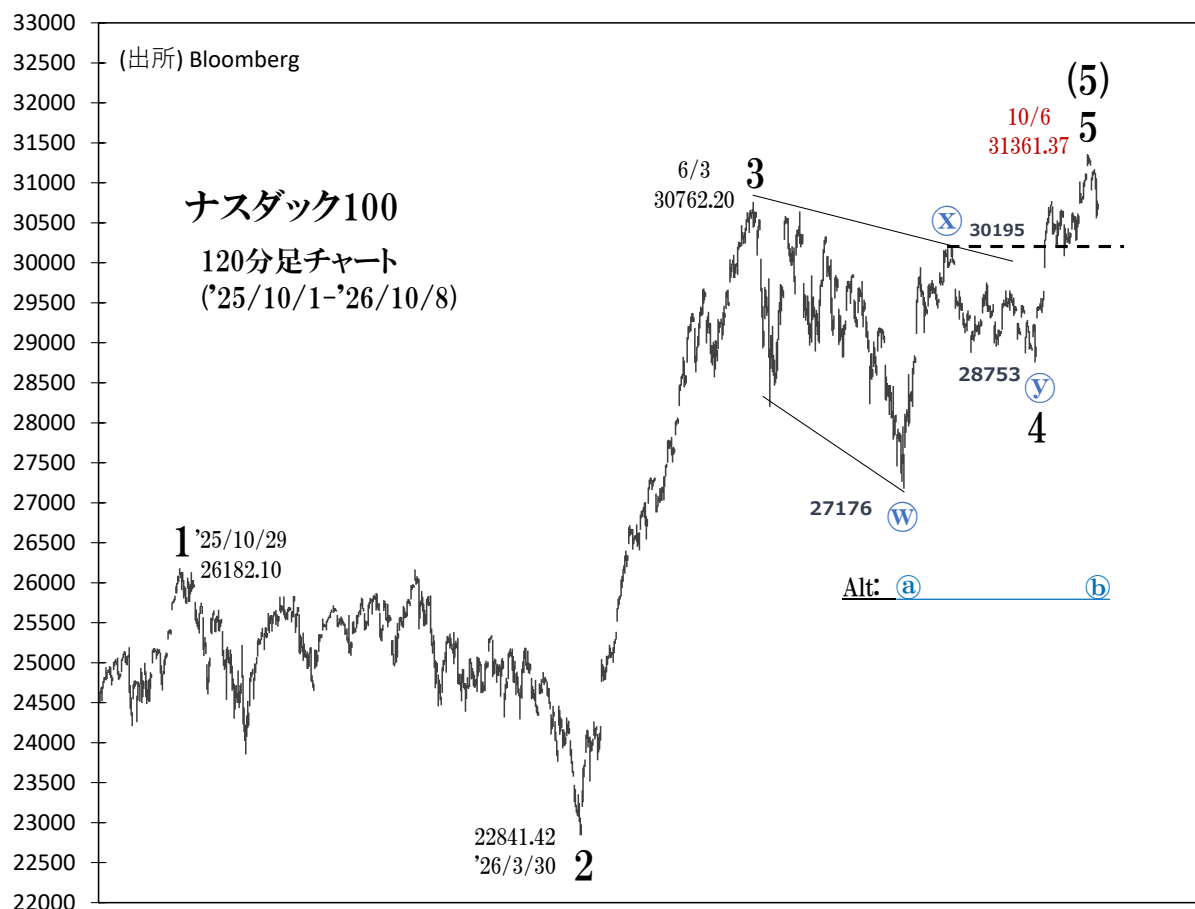
25 年 4 月安値からの上昇は「ウェッジ」天井パターンです。10 月 6 日に最高値を付けましたが、天井パターンの上限から反落しています。9 月 29 日安値(破線)を下回ると、マグ 7 がピークアウトした可能性が高まります。



[ダウ輸送株平均]



ナスダック 100



【ナスダック 100 時間足 エリオット波動分析】

25 年 4 月安値(16,542)から展開している上昇波は、インターミディエイト第(5)波に位置付けられます。

28,753(9/16 安値)からの上昇マイナー5 波は、31,361(10/6 高値)で完了した可能性があります。

示していませんが、10 月 6 日の日足は「アイランド・リバーサル」天井となっています。

マイナー5 波の完成=インターミディエイト第(5)波が完成したとすると、当面は 200 週 MA(現在 20,350 処)を目指すベアマーケットとなるでしょう。

(オルタナティブカウント、Alt)

インターミディエイト第(5)波におけるマイナー第 4 波が「フラット」で展開しており、27,176(7/29 安値)からの上昇はマル b 波に相当します。

31,361(10/6 高値)からの下落はマル c 波に当たり、それは 27,176 を早々に試すでしょう。

なお 2 万 7000 処を下回ることがあっても、マイナー1 波の高値(26,182)と重ならない限りは、第 5 波による上昇の可能性が残されています。

もっとも 26,182 を一時的にも下回れば、マイナー第 4 波という見方は却下され、本格的なベアマーケット入りを改めて確認します。

米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

日米実質金利差から導かれる米ドル/円の水準は、現在 1ドル=147-148 円程度です。

さらに、購買力平価からの妥当な円相場は OECD 算出の GDP ベースで 1ドル=97 円～103 円です。

短期的にも長期的にも、日本円の過小評価が続いています。

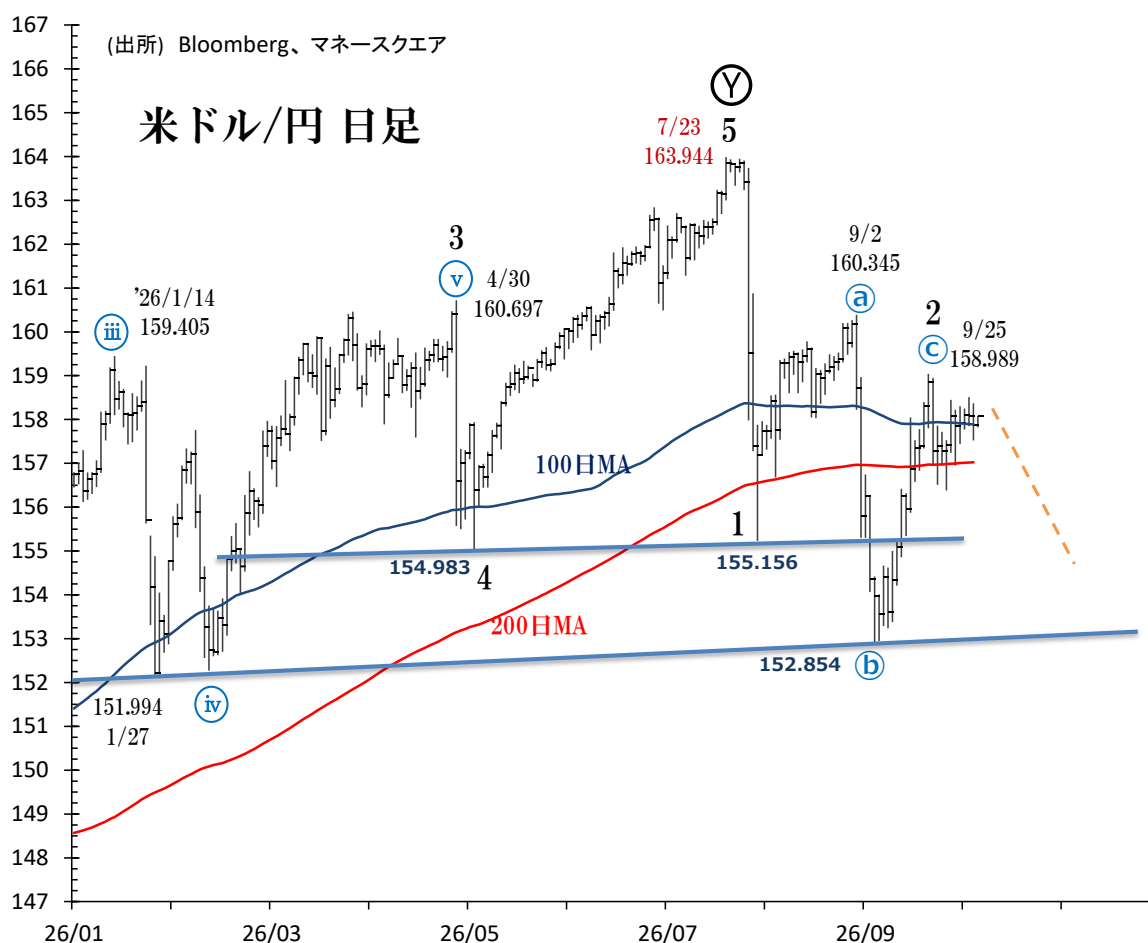
163.944 円(7/23)を以て通算 5 年間の円安①波[ウェッジ]は完了した、とみられます。ウェッジ内の副次波は、次のように相互に美しい比率を示しています。

(C)波の長さ÷(A)波の長さ=0.703、(E)波の長さ÷(C)波の長さ=0.703

この先は数年間にわたる円高になるでしょう。上記のように、長らく日本円はその実力に比べ過小評価されてきましたが、今後は実力に見合った適正な水準が模索されていくと思われます。

7 月末の日米協調円買い介入は、円安の限界水準(160 円台前半)を明示しており、もはや積極的な円売りの動機は失われたといえます。今後は次第に円高傾向が強まっていくでしょう。

筆者は今後数年内(2028 年?)に、1ドル=120 円-125 円を付けてもおかしくない、とみています。それは歴史的なレンジ[80 円-160 円]の中値に相当し、かつて「黒田シーリング」と言われた水準でもあります。



【日足 エリオット波動分析】

155.156 円(8/3)からの第 2 波「ランニング・フラット(マル a-マル b-マル c)」は、158.989 円(9/25)で完了した可能性があります。

そうであれば、強いドル安・円高波動(第 3 波)が近々到来すると想定されます。

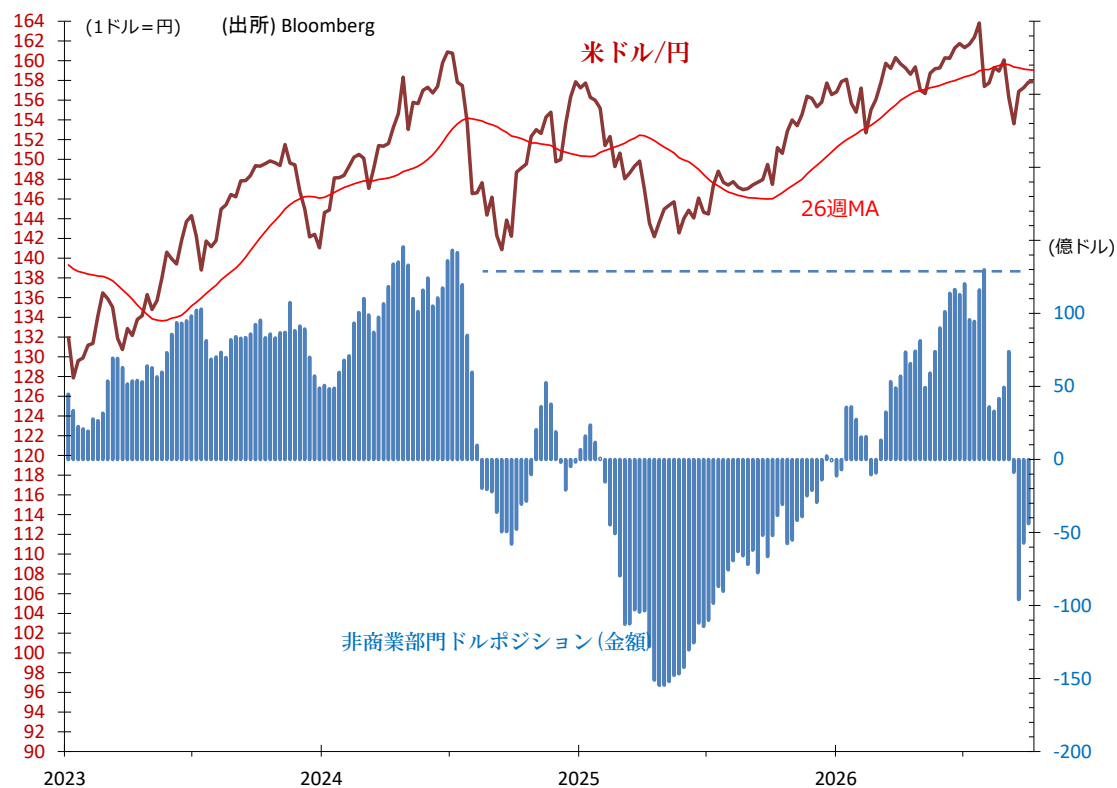
近々第 3 波は、「複合型ヘッド・アンド・ショルダーズ」のネックライン=152 円処を試すでしょう。152 円処は、25 年 4 月(139.577 円)からのドル/円上昇の半値戻り[151.910 円]に相当する上、今年 1 月 27 日の安値 151.994 円でもあります。

心理的節目の 150 円も視野に入り、その直下には 61.8%戻り水準[149.070 円]が控えています。

なお複合パターンに基づくターゲットは、①145 円-146 円、②141 円です。これらターゲットが、10 月末にかけて達成されるかを注目しています。

金利差からのドル/円推計値

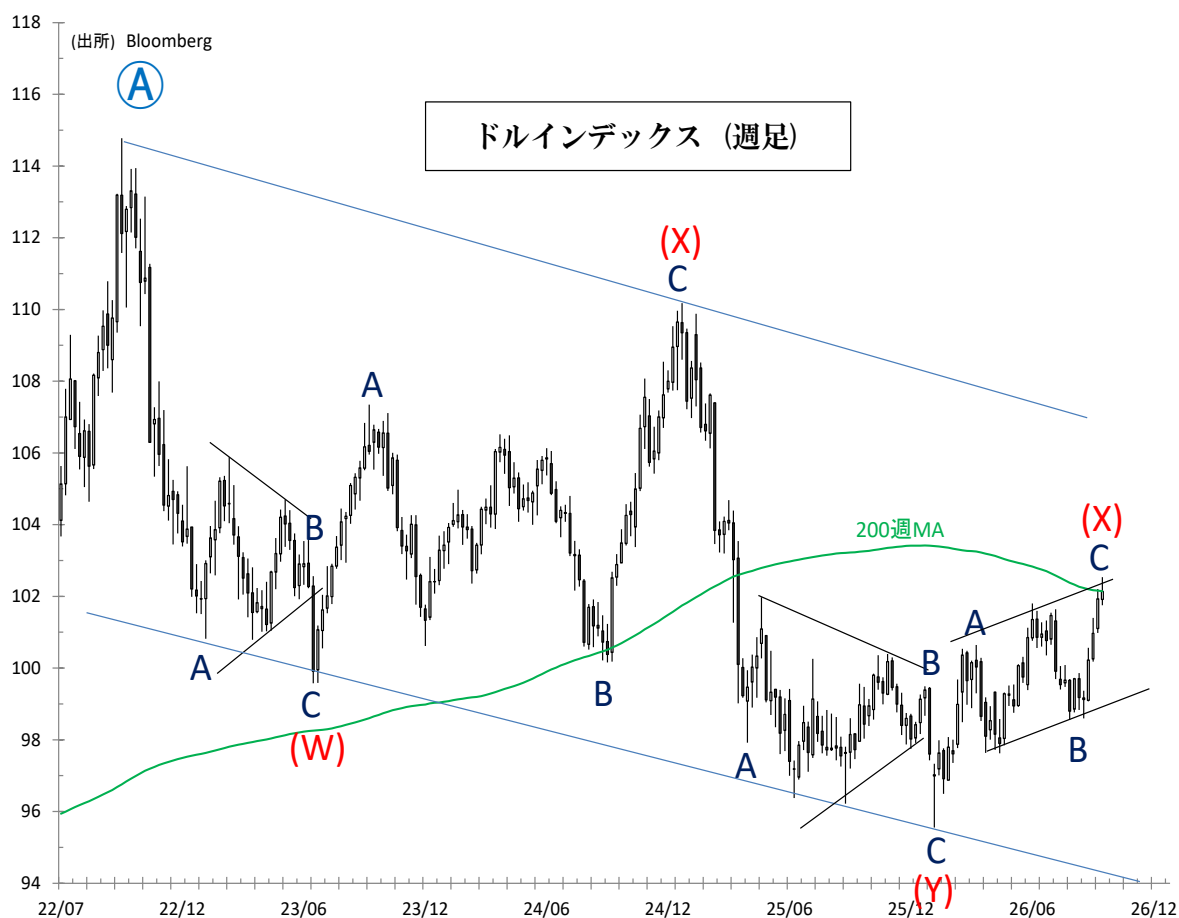
足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は[147.363 円]です。



円買い持ち高が2週連続で縮小 (2026年9月29日時点)

IMM 通貨先物市場で投機筋(非商業部門)による円買い持ち高は、前週の57.20億ドルから43.90億ドルへ前週に続き縮小しました。

ドルインデックス (ドル指数)



【エリオット波動分析】

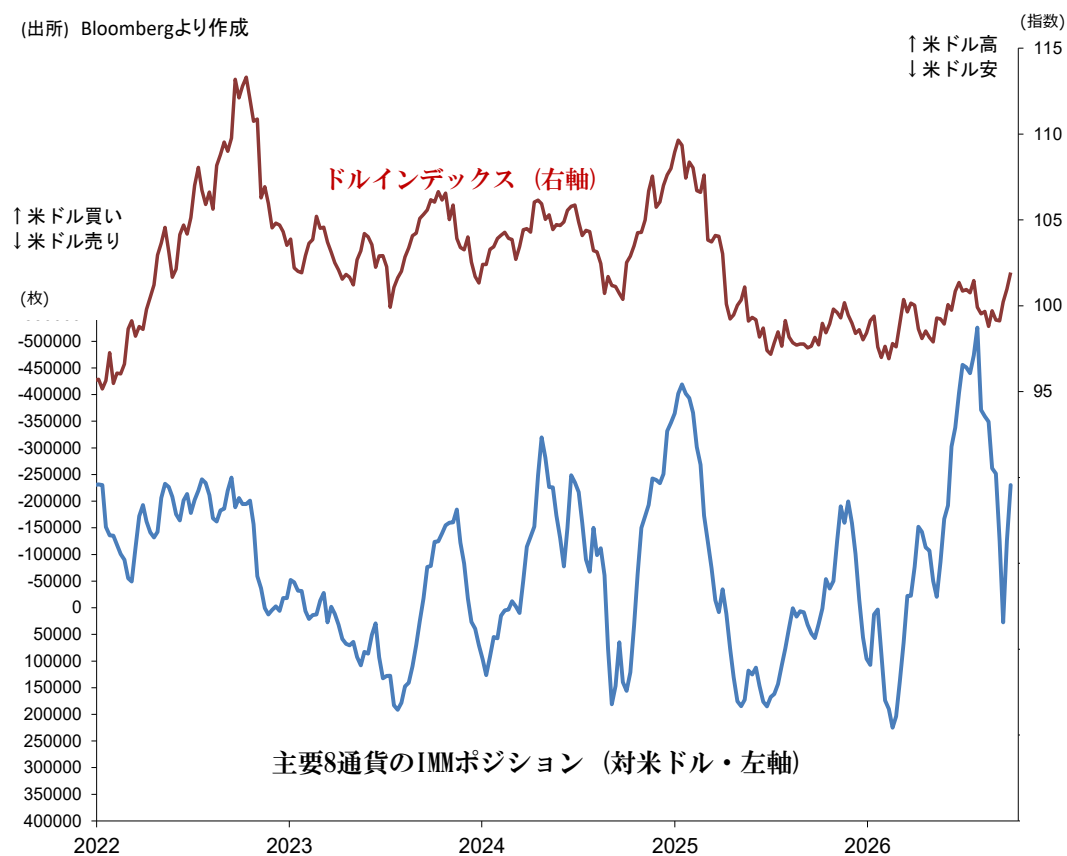
今年 1 月からのドル高・(X)波は A-B-C 編成ですが、そのうち B 波「フラット」は 98.557(8/21)で完了し、以降のドル高は C 波に位置付けられます。

直近のドル上値は 200 週 MA の抵抗を受けているようです。C 波及び(X)波はいつ終わってもおかしくありません。そうであれば、ドル安トレンドの再開は近いと思われます。

その反面、ドル高基調が続く場合に合は、(Y)波(25 年 1 月～26 年 1 月)の半値戻り[102.864]、さらに[103.654](A 波と C 波が等しく上がる水準)へ上昇余地があります。

投機筋のドル合成ポジション買い持ち高は 2 週連続の増加(2026 年 9 月 29 日時点)

投機筋によるドル合成ポジションは、ドルの買い持ち高が、前週 12 万 5909 枚から 23 万 331 枚と前週に続き増加しました。



※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4% 以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10% です。

金融商品取引業 関東財務局長（金商）第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア